

ビジネスアイデアの概要

医療・介護の現場では、当事者の意欲低下により適切なケアが行えず、本人のADL・QOLが向上しないことに加え、介護量の増加による周囲への負担、医療費の増大等といった課題を抱えている。また、意欲は主観的なものであるが故に評価が難しく、意欲向上に向けての適切なアプローチを検討することも難しい。そこで、簡便なウェアラブル脳波計による客観的な意欲評価法を確立し、誰でも、どこでも、適切な介入を可能とする事業の実現を目指す。また、当事者自身の写真撮影による意欲向上効果も期待されており、簡単な手法で高齢者の意欲向上、ウェルビーイングを獲得する事業も同時に推進する。

ビジネスアイデアを事業化するための課題

- ・意欲と相関する脳波の抽出、モデル化
- ・現場で簡単に使用できる意欲評価デバイスの開発
- ・写真撮影が意欲向上に有効であるかの検証
- ・ビジネスモデルの検討

事業化の見通し

これまでに行った整形外科術後患者に対する予備研究では、写真撮影の有無による脳波の識別精度はROC解析の結果、AUC:0.913と非常に高く、また心理検査の結果では写真による意欲向上効果もみられている。

今後は母数、対象を拡大して調査を継続していくと同時に、意欲の高低と相関する脳波の特徴量を見出だし、脳波の意欲モデルを作成する。最終的には現場で一般の方が使いやすいデザインに落とし込み、事業化する。

事業者情報



山本夏希

(大阪大学大学院医学系研究科
器官制御外科学 整形外科)

ビジネスアイデア概要図等

